

平成27年度 全国体力・運動能力，運動習慣等調査 ～ 留萌市における結果の概要 ～

平成28年2月 留萌市教育委員会

I 調査の概要

1. 調査目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み，国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより，子どもの体力に係る施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。
- (2) 教育委員会，各学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が児童生徒の体力や運動習慣，生活習慣等を把握し，学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査対象

- (1) 小学生調査 小学校第5学年（留萌市調査実施児童 男子77名 女子76名）
- (2) 中学校調査 中学校第2学年（留萌市調査実施生徒 男子69名 女子88名）

3. 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査（測定方法等は新体力テストと同様）

・小学校調査

[8種目] 握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，20mシャトルラン
50m走，立ち幅とび，ソフトボール投げ

・中学校調査

[8種目] 握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，20mシャトルラン
持久走（男子1500m，女子1000m），50m走，立ち幅とび
ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択

イ 質問紙調査

・運動習慣，生活習慣等に関する質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

・子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

4. 調査実施日

平成27年4月から平成27年7月末までの期間

II 実技に関する調査結果の概要

1. 用語解説と説明

体力テスト種目	体力要素	測定
握力	筋力	左右握力の平均値
上体起こし	筋パワー・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数

長座体前屈	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離	
反復横とび	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数	
20mシャトルラン	全身持久力	20m走行の折り返し回数	(中)どちらかの1種目 を選択
(中)持久走	全身持久力・長距離走能力	走行時間	
50m走	疾走能力	50mの疾走時間	
立ち幅とび	筋パワー・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離	
ソフトボール投げ (中)ハンドボール投げ	巧緻性・投球能力	遠投した距離	
体力合計点	8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点(80点満点)		
総合評価	8種目の体力テストをすべて実施した場合、体力テスト合計得点の良い方からABCDEの5段階で評定した体力の総合評価		

※(中)は中学校

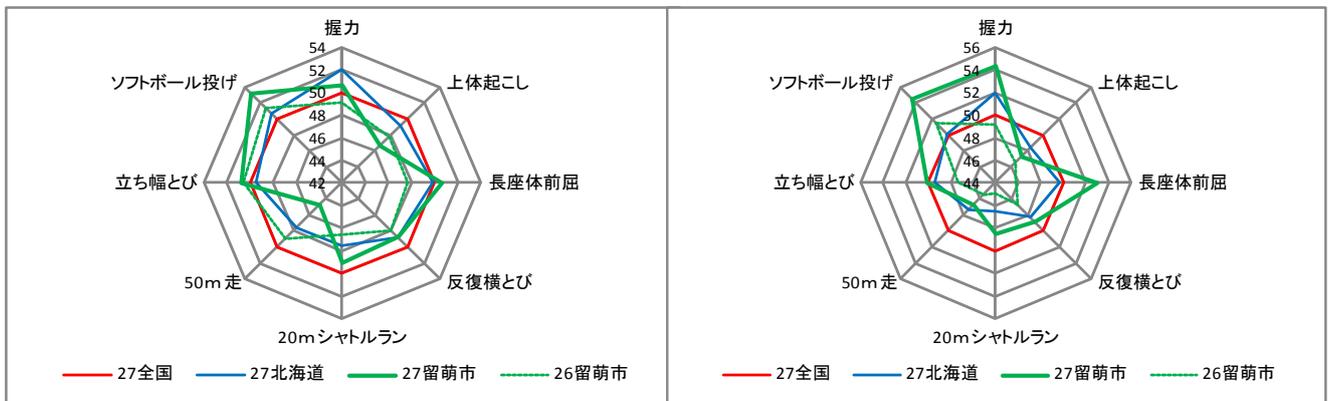
用語	解説
平均値	調査結果(テスト成績)の算術平均値で集団の尺度上の位置を示す 「平均値＝調査結果の総和／標本数」
T得点	全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較する 平均値50点、標準偏差10点の標準得点、「T得点＝50＋10×(調査結果－平均値)／標準偏差」

2. 小学校5年生の結果概要

(1) 各種目の結果(全国を50とした時のT得点をレーダーチャートで表示)

<男子>

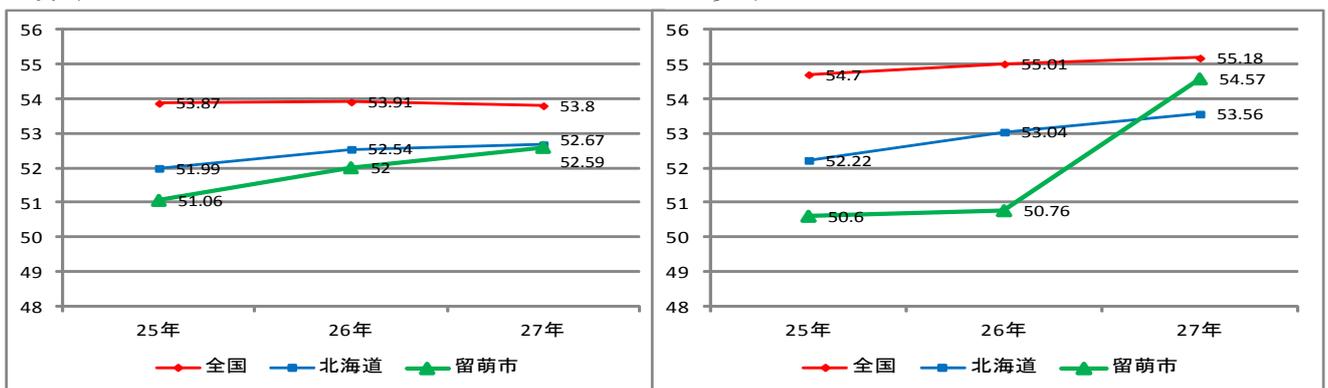
<女子>



(2) 体力合計点(平均値)の推移

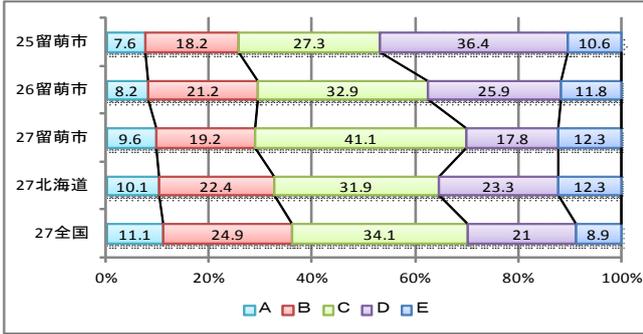
<男子>

<女子>

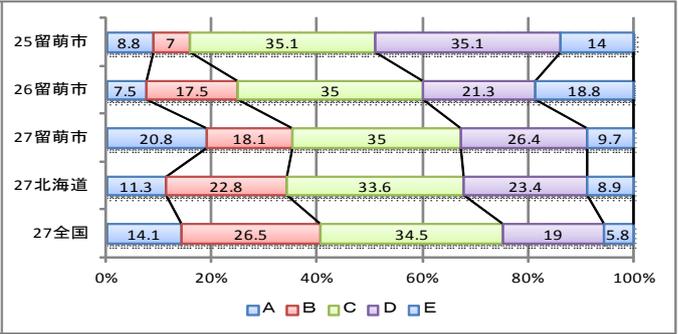


(3) 総合評価の推移

<男子>



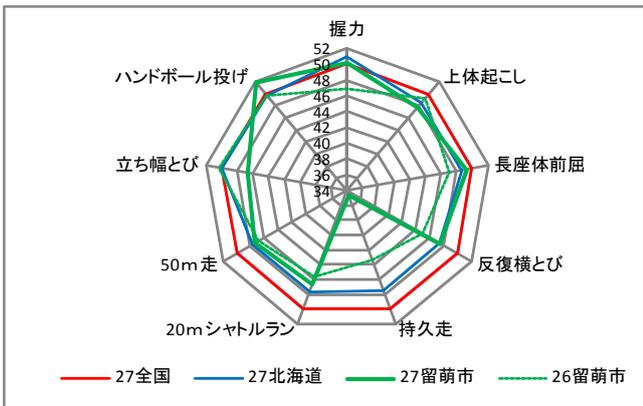
<女子>



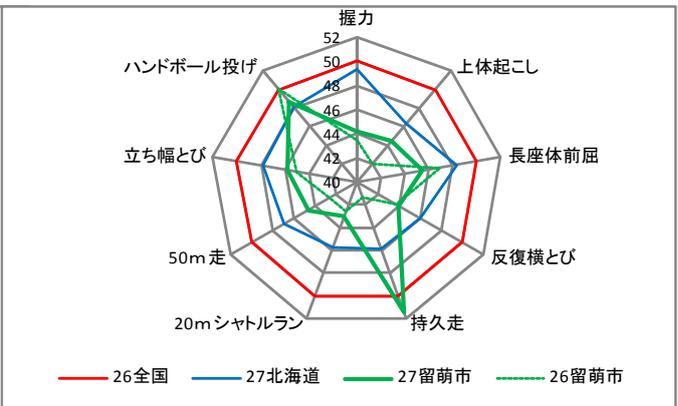
3, 中学校2年生の結果概要

(1) 各種目の結果 (全国を50とした時のT得点をレーダーチャートで表示)

<男子>

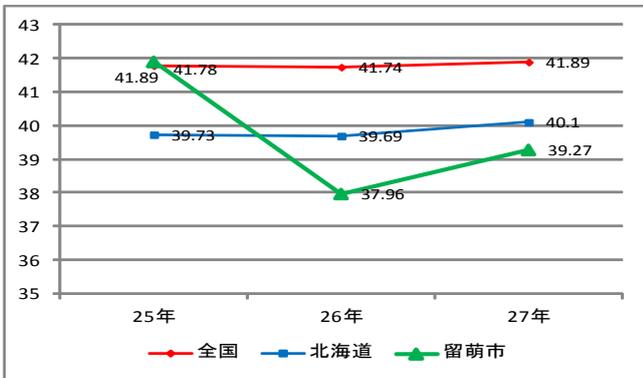


<女子>

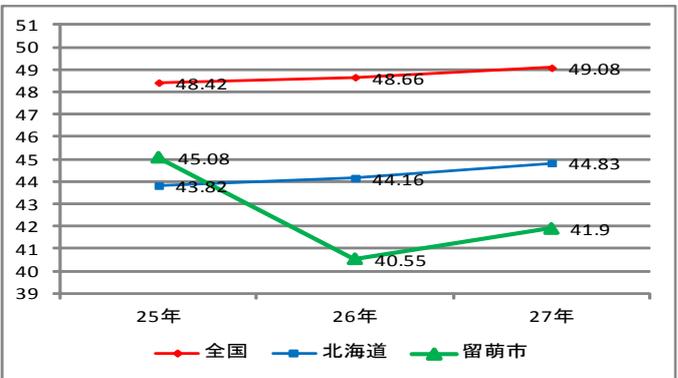


(2) 体力合計点(平均値)の推移

<男子>

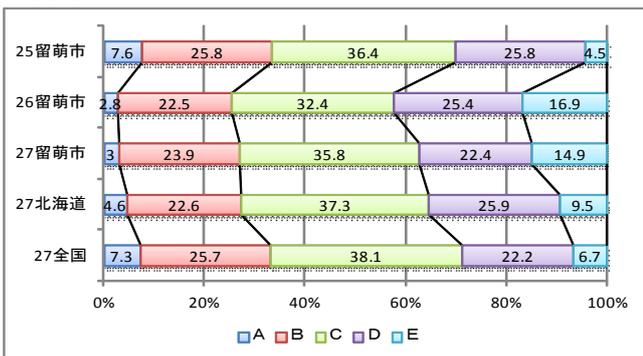


<女子>

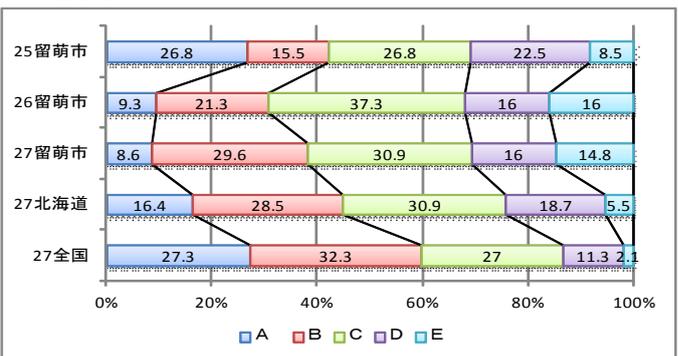


(3) 総合評価の推移

<男子>



<女子>



【小学校】

○各種目

- ・全国平均を上回った種目は、男女ともに「握力」「長座体前屈」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」である。
- ・8種目中男子は6種目、女子は全種目で差を縮めている。

○体力合計点・総合評価

- ・体力合計点は男女いずれも全国平均を下回っているが、昨年度と比較して、全国との差を縮めている。
- ・総合評価は男女いずれもA・B層の割合が全国より少ないが、一方でD・E層の割合は減少傾向である。

【中学校】

○各種目

- ・全国平均を上回った種目は、男子の「握力」「ハンドボール投げ」、女子の「持久走」である。
- ・9種目中男子は6種目、女子は7種目で差を縮めている。

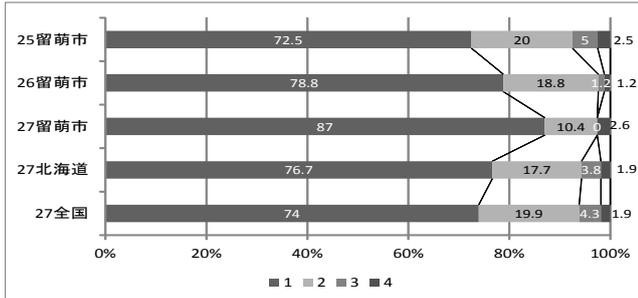
○体力合計点・総合評価

- ・体力合計点は男女いずれも全国平均を下回っているが、昨年度と比較して、全国との差を僅かだが縮めている。
- ・総合評価は男子ではA・B層の割合が全国より少なく、またD・E層の割合は昨年度より減少したが、全国よりは多くなっている。一方女子ではA・B層の割合が昨年度より多く、D・E層の割合が少ないが、依然として全国との差は広がっている。

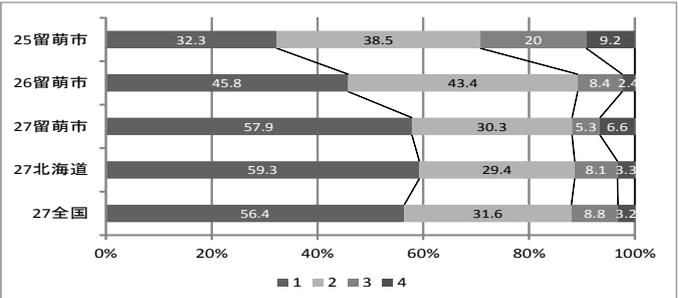
Ⅲ 児童生徒質問紙の調査結果の概要

質問 1	運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。
	1 好き 2 やや好き 3 やや嫌い 4 嫌い

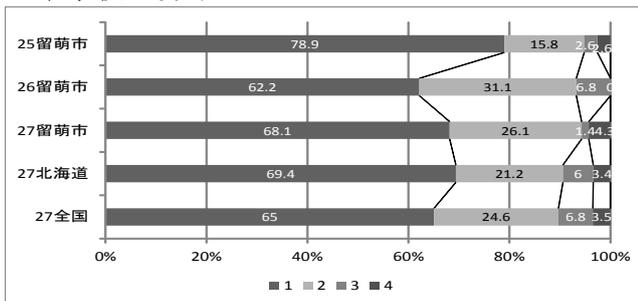
<小学校・男子>



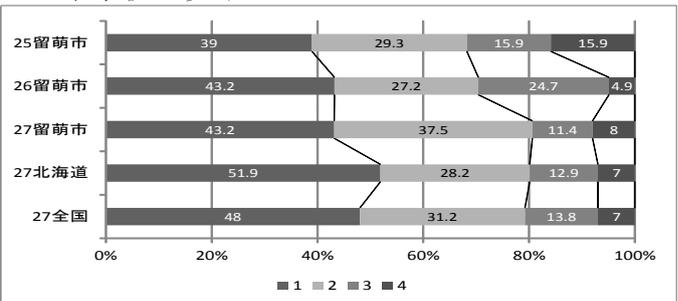
<小学校・女子>



<中学校・男子>

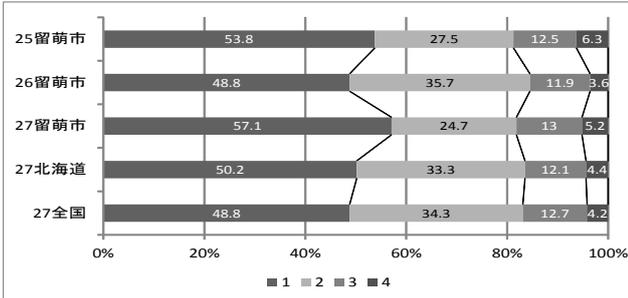


<中学校・女子>

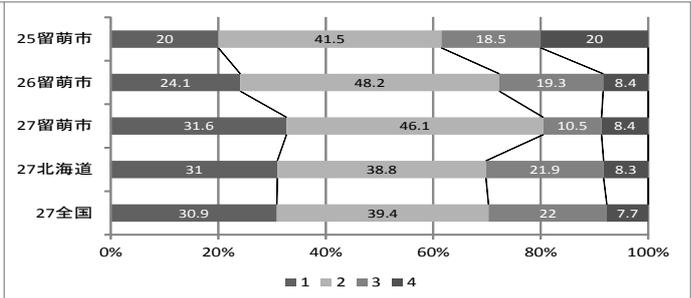


質問 2 運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは得意ですか。
 1 得意 2 やや得意 3 やや苦手 4 苦手

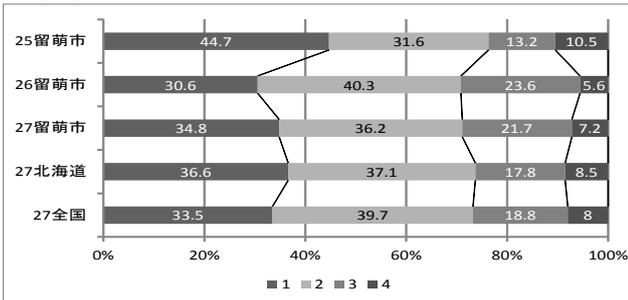
< 小学校・男子 >



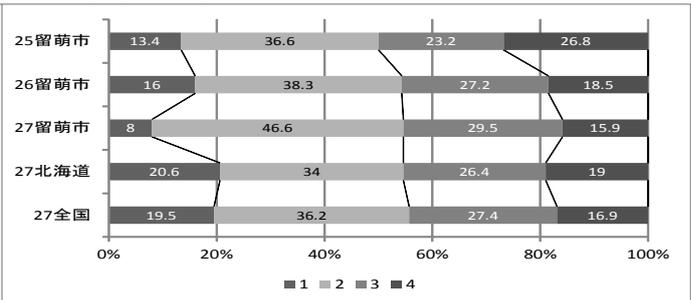
< 小学校・女子 >



< 中学校・男子 >

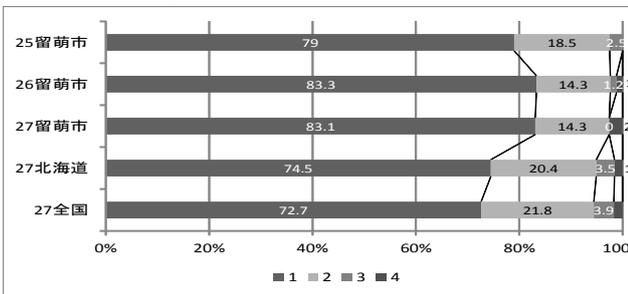


< 中学校・女子 >

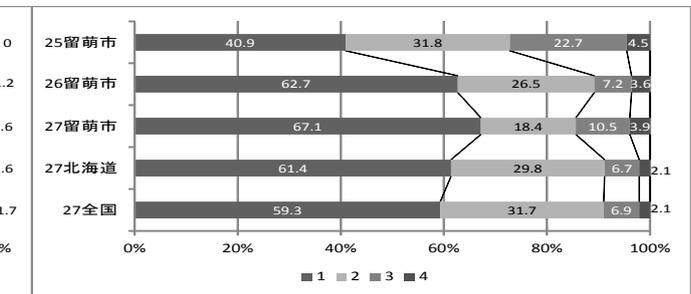


質問 3 体育（保健体育）の授業は楽しいですか。
 1 楽しい 2 やや楽しい 3 あまり楽しくない 4 楽しくない

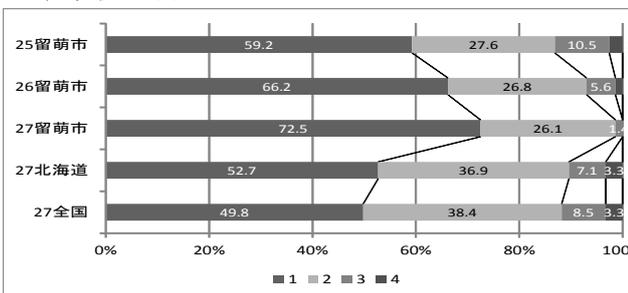
< 小学校・男子 >



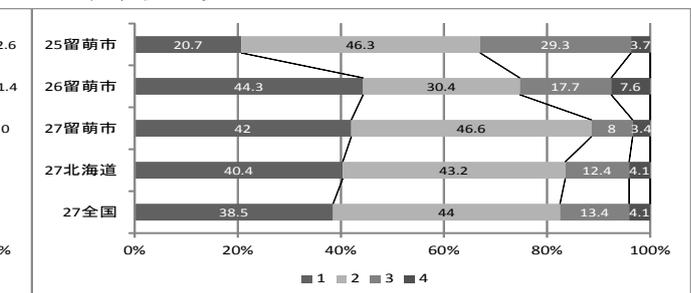
< 小学校・女子 >



< 中学校・男子 >



< 中学校・女子 >



【小学校】

- ・運動やスポーツをすることは好きであると肯定的に回答した児童の割合は男女ともに全国よりやや高く、特に「好き」と回答した児童の割合は増加傾向である。
- ・運動やスポーツをすることが得意であると肯定的に回答した児童の割合は特に女子は増加傾向であり、全国よりも高くなっている。
- ・体育の授業は楽しいですと肯定的に回答した児童の割合は男子は全国より高くなっているが、女子は増加傾向ではあるが、全国よりはやや低くなっている。

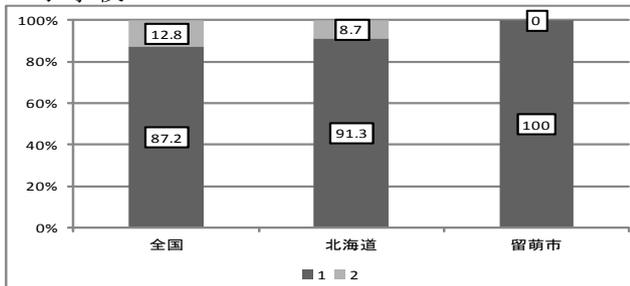
【中学校】

- ・運動やスポーツをすることは好きであると肯定的に回答した生徒の割合は男女ともに全国よりやや高く、特に女子は増加している。
- ・運動やスポーツをすることが得意であると肯定的に回答した生徒の割合は男女ともに全国よりやや低くなっている。
- ・保健体育の授業は楽しいですと肯定的に回答した生徒の割合は、男女ともに全国よりやや高く、増加傾向である。

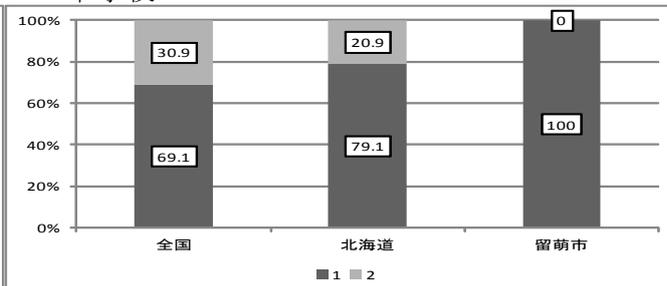
IV 学校質問紙の調査結果の概要

質問 1	体育の授業以外で全てに児童生徒の体育・運動能力の向上に係る取組を行いましたか。
	1 行った 2 行わなかった

<小学校>

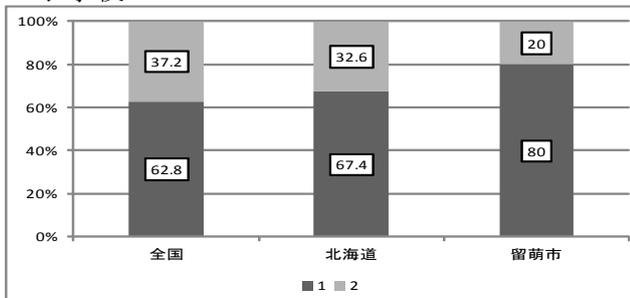


<中学校>

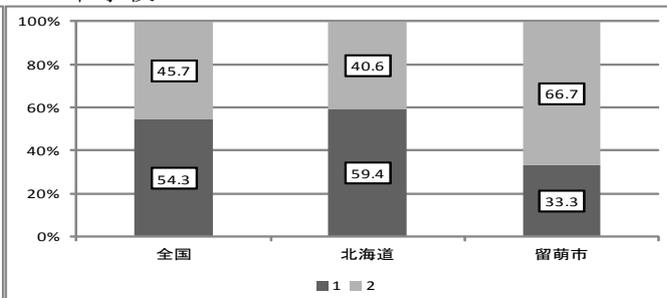


質問 2	児童生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を、学年としての目標と別に設定していましたか。
	1 設定していた 2 設定していなかった

<小学校>

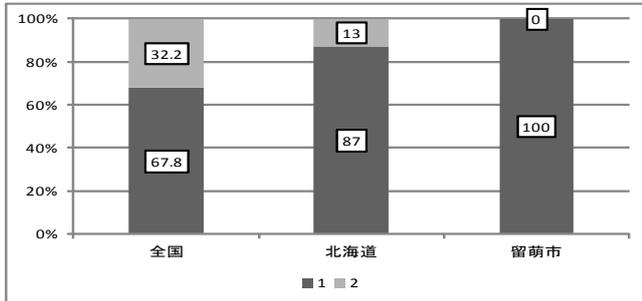


<中学校>

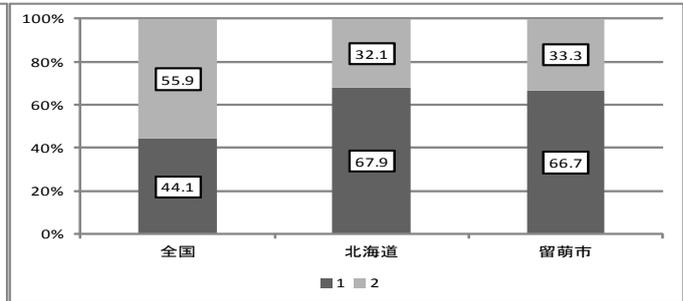


質問 3	児童生徒の家庭に対して、子どもの体力向上に係る説明・呼びかけ等を行いましたか。
	1 行った 2 行わなかった

<小学校>



<中学校>



【小・中学校】

- ・ 体育の授業以外の児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組は全ての小中学校でなされている。
- ・ 児童生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を、学年としての目標と別に設定している学校の割合は、小学校では全国平均よりも高いが、中学校では低くなっている。
- ・ 児童生徒の家庭に対して、子どもの体力向上に係る説明・呼びかけ等を行っている学校の割合は、小中学校ではいずれも全国平均より高くなっている。(全小学校実施)

V おわりに

子どもたち一人ひとりが、生涯を通じて健康で活力ある生活を送れるよう小・中学校から運動に親しむ資質や能力の育成，体力の向上に努める必要があります。

各学校では，本調査の結果を分析し，自校の児童生徒の体力・運動能力の課題を明確にし，実態に応じた改善策を立て，体力向上に継続的に取り組むなかで今年度は改善の傾向が着実に表れてきています。

今後も引き続き各学校における「1校1実践」の取組や，適切な運動量を確保する体育・保健体育科等の授業改善をすすめるとともに，家庭や地域，関係機関と連携しながら，児童生徒の運動や健康への関心を高めてまいります。